

最も早く「つなぐ」ことを実現し、最も早く「つながない」決断をした理由

Published: 2026-01-13 / Updated: 2026-09-27

Summary

当社のオフグリッド／エネルギーシステムは、客先側ではローカル環境からのみアクセスできるUXを基本としています。その背景には、u-Japan期にホームコントローラSAMOSを展開し、携帯電話から住宅設備を遠隔監視・操作するサービスを実装した経験があります。スマートフォン時代への移行で従来の認証前提が変わり、認証・更新・監視・インシデント対応を長期に維持する責任まで含めて再評価した結果、2016年にSAMOSから完全撤退しました。本稿の中心は、UXの便利さより「責任を持てる範囲で完結する設計」を優先するという判断です。

Key Points

- 設備を「つなぐ」判断は、画面がどこからでも見えるかだけでは決まりません。外部接続を持つ限り、認証、通信経路、サーバ、ソフトウェア更新、監視、インシデント対応を長期間維持する責任が生まれます。当社はu-Japan期のスマートホーム実装と撤退経験を経て、客先側はローカル限定UX、提供者側は責任主体として必要な監視を担う構成を選びました。設計の基準は、「誰が、どこまで、将来にわたって責任を持てるか」です。
- 「どこからでも見える」利便性と、認証・更新・監視・障害対応を長期維持する責任を並べ、どこまでをローカルで完結させ、誰に外部アクセス権限を持たせるかを判断する。

Source Article

<https://www.ieee802.co.jp/articles/article-109-offgrid.php>

© Kei Communication Technology Inc.

This document is a summary of the source article. For the latest information, refer to the source URL.